

気づきの質を高める

気づきとは？



自ら対象にかかわって、わかったこと

気づきは、平成元年の学習指導要領の改訂において新設されて以来大切にされてきました。平成20年の改訂においては、気づきの質を高め、活動や体験を一層充実するための学習活動を重視するとしています。

気づきは、対象に対する児童一人一人の認識です。児童の主体的な活動によって生まれるものです。つまり、自ら対象にかかわって、分かったことと言えます。ですから、気づきは多様ですし、極個人的なものです。学級で指導する場合、教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導によって高まるものと言えます。

質とは？

大辞林では、「内容の良否。価値。・一より量」「事物についてさまざまに述べられる側面の一つで、ことに量に対するもの。どのようなという問いに対応する事物の在り方。」と説明されています。

つまり、質とは量をいっているのではなく、それ自体がどのような価値を持っているかということになります。だから、質は高まっていくものです。

気づきの質を高めるには？



学習指導を工夫すること

子どもは、気づいたことと気づいたことを比較したり、分類したり、関係付けたりして考えます。そして、そこには、新しい気づきが生まれてきます。このように、気づきを基に考える学習活動を行うことで、子どもの気づきは次第に質的に高まっていきます。そこで、見つける、比べる、例えるなどの多様な学習活動を充実させることが求められてくるのです。

教師は、児童の気づきの質を高めるために、学習活動を多様化させ、繰り返し活動させて自分の成長について気付かせたり、気づきをもとに考えさせたりするよう工夫しましょう。

気づきの質を高める学習指導の進め方

- 1 振り返り表現する機会を設ける
- 2 伝え合い交流する場を工夫する
- 3 試行錯誤や繰り返す活動を設定する
- 4 児童の多様性を生かす

それぞれを見ていきましょう。

1 振り返り表現する機会を設ける

活動や体験したことを言葉などによって振り返ることで、無自覚だった気づきが自分の中で明確になったり、それぞれの気づきを共有し関連づけたりすることが可能になります。

2 伝え合い交流する場を工夫する

参考：「言葉の力」
平成20年3月岡山
県教育庁指導課

互いに伝え合い交流する活動は、集団としての学習を高めるだけでなく、一人一人の気づきを質的に高めていく上でも意味があります。

相手の反応から足りないところに気づき、次の活動が明確になることもあります。また、身の回りの人々から賞賛されることによって、意欲の向上が図られることもあります。

3 試行錯誤や繰り返す活動を設定する

どんぐりゴマを作って遊ぶ児童は、大きさや形、軸の立て方、回し方などを何度も作り直して行くうちに、作り方への気づきが質的に高まっていきます。

繰り返し野菜を育てる間に、植物の斉一性や多様性に気付くこともあります。

4 児童の多様性を生かす

児童一人一人には違いや特性があります。つまりは、それぞれの気づきも多様であるということです。また、それらは活動とともに変化していきます。

一人一人の気づきは違っていても、それぞれの違いや共通点を見出す中で、気づきを質的に高める児童の姿が期待できます。

学級の中に、多様性を尊重する風土を醸成し、互いが異なることを認め合える雰囲気作りが大切です。



参考文献

・ 文部科学省 「小学校学習指導要領解説 生活編」(平成20年8月)